

ピロリ菌検査（胃がんリスク層別化検査）説明書
～検診を受ける前に必ずお読みください～

ピロリ菌検査（胃がんリスク層別化検査）とは

胃がんの発生要因であるピロリ菌の感染（血清ピロリ菌抗体）と胃粘膜の萎縮の程度（血清ペプシノゲン）を血液で調べ、その結果により、胃がんになりやすいかどうか（リスクが高いか低い）をA・B・C・Dという4つの群に分類する検査です。

この検査は、将来の胃がんになるリスクを予想し、早期発見につなげる検査であり、**直接胃がんを見つける検査ではありません。**

※ 胃がんになりやすいかどうかを調べる検査です。



【ABC分類】

判定	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌抗体	－	＋	＋	－
ペプシノゲン	－	－	＋	＋
胃粘膜の状態	萎縮はない	萎縮は軽度	萎縮が進んでいる	萎縮が高度
胃がん発生リスク	低	→		高
1年間の胃がん発生頻度	ほぼゼロ	1,000人に1人	500人に1人	80人に1人
精密検査	不要 *自覚症状があるときは必要。	必要 定期的に胃内視鏡検査を受ける。具体的には医師と相談。		

B～D群に分類された人は、精密検査（保険診療として自己負担になります）が必要です。精密検査が必要となった場合は、必ず受診し、必要な対応を医師と相談してください。

※検査に適さない人

以下にあてはまる人は、検査結果が正しく判定できないため、この検査は避けるべきだと考えられています。検査を希望する場合は、医師にご相談ください。

胃の不快感、胸やけ、吐き気、嘔吐などの症状がある
食道・胃・十二指腸の病気を治療中

⇒ 保険診療での治療を優先してください。

胃酸を抑える薬（タケロン・オメプラール・パリエット等）を服用中

胃を切除したことがある

⇒ ペプシノゲンの値が正しく出ません。

腎不全（目安：クレアチニン値が3ml/dl以上）

ピロリ菌を除菌したことがある

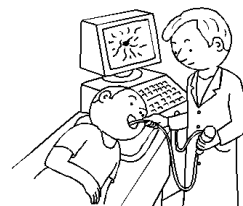
⇒ ピロリ菌の値が正しく出ません。

精密検査とは

胃内視鏡検査のことです。保険診療として自己負担になります。

現在の胃の中の状態を確かめるため、必ず受けてください。

精密検査を受けたあとは、定期的に胃内視鏡検査を受け続け、ピロリ菌感染がある場合は除菌治療を受けることをおすすめします。



*検査の精度を分析するため、精密検査結果は三股町へ報告されることになっています。

ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）とは

ピロリ菌は、胃粘膜にすみつく細菌で、萎縮性胃炎を引き起こし、胃潰瘍や胃がんの原因になります。



現在のところ、ピロリ菌は人間の胃の中にしか存在しないことがわかっています。

感染経路は不明ですが、多くは幼少期に飲み水などによって経口感染すると考えられています。

日本では、衛生環境が十分整っていなかった時代に生まれた人の感染率が高く、50歳以上の人の約半数は、ピロリ菌に感染しているといわれています。

また、胃がんの8割がピロリ菌の感染が原因だといわれています。

ペプシノゲンとは

ペプシノゲンは、胃粘膜から分泌される消化酵素ペプシンのもとで、PG I と PG II とに分かれます。PG I は主に胃酸を分泌する領域から、PG II は胃全体から分泌され、分泌される量と範囲が異なるため、その両方の値を測定することで胃の粘膜がどのような状態か推測できます。胃の萎縮が進むと、PG I / II 比が低下します。

～この検査により得られる検査結果情報（個人情報）の取り扱いについて～

都城市ならびに三股町は、「ピロリ菌検査（胃がんリスク層別化検査）」を都城市北諸県郡医師会（以下「委託医療機関」といいます）に委託して実施します。

この検査により得られた検査結果（一次検査）及び検査結果に基づく精密検査結果につきましては、検査の精度管理のため、都城市ならびに三股町のほか委託医療機関及び精密検査実施医療機関において情報を共有させていただきます。

なお、共有する情報は、医学的統計のために使用し、それ以外の目的で本情報を取り扱うことはありません。

この検査の精度を分析するため、精密検査受診状況についておたずねする場合があります。ご了承ください。

三股町のピロリ菌検査（胃がんリスク層別化検査）助成は、生涯1回のみになります。

今回の検査結果は大切に保管し、その後の健康管理に役立ててください。



<検査に関するお問い合わせ>

●三股町に住所を有する人 ⇒ 三股町健康管理センター

〒889-1901 三股町大字樺山 3902 番地 2

電話 0986-52-8481

FAX0986-52-1056